

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：商業費 目：商業振興費
担当課	ひろしまブランド推進課
事業名	ひろしまブランド推進事業（単県）【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	68 「ひろしま」ブランドの価値向上を推進します。
	① 「ひろしま」ブランドの価値向上

目的

ひろしまブランドの国内外での認知・評価を高め、魅力ある地域として「選ばれる」ようになるため、持続的な「地域経済の活性化」につなげ、「地域に対する愛着・誇り」を高めるため、ひろしまブランド構築に向けた県民の共通理解・機運醸成を図り、自発的な活動の拡大を目指す。

また、ひろしまの魅力を、首都圏はもとより全国に向けて発信するため、広島ファンの拡大と広島地域ブランドの価値向上を図る拠点「ひろしまブランドショップT A U」の運営を行う。

事業説明

対象者

県民及び県外者、市町、事業者、「ひろしま」ファン等

事業内容

1 ブランド価値の向上

(単位:千円)

区 分	内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
食の魅力	○ 「ひろしまの食の魅力」のPR【新規】 ・食体験イベント等の実施 ・県内の食関係者の活性化に向けた県内料理人や県産食材のPRイベント ・食関係資産調査の実施など	16,044	16,044	16,819
情報発信	○ ひろしまブランドWEBサイト運営 ・ひろしまブランドの認知・理解を促進する県民参加型WEBサイトの運営	28,995	28,995	27,584
その他	○ 成果検証のため、コンセプト浸透度等についてインターネット調査を実施	2,240	2,240	1,851
小 計		47,279	47,279	46,254

2 広島ブランドショップT A Uの運営

区 分	内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
施設管理運営費	○ 施設管理・運営 ・賃料、共益費、光熱水費、通信費等	201,081	200,703	199,490

ブランド価値向上・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3F イベントスペース等を活用したイベントの展開 ・広島ファンの増加イベント, 県産品・地域資源PR イベント ○ HP や Facebook 等を活用した情報発信 ○ 店舗の認知性向上に向けたプロモーション 	26,979	24,983	22,532
販路開拓支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県産品販路開拓支援 ・セミナーによる課題認識・意識啓発, 商品改良に向けた個別相談等 ・バイヤーへの商品提案, ビジネスマッチングの実施 	9,161	9,161	8,085
小計		237,221	234,847	230,107
合計		284,500	282,126	276,361

成果目標

○ 中長期の目標

都道府県魅力度ランキング（ブランド総合研究所）：全国8位以内（平成32年度）

売上高：前年度実績を上回る額

○ 平成29年度の目標

ブランド価値の向上	県民のひろしまに対する愛着度・自慢度	愛着度10位以内（6位（平成28年度））, 自慢度10位以内（7位（平成28年度）） 地域ブランド調査（ブランド総合研究所）
TAUの運営	売上高 平成28年度の実績を上回る額, 県産品等の報道件数1,000件以上, 新規取引100件以上	

平成29年度実績

○ 都道府県魅力度ランキング（ブランド総合研究所） 16位

指標名		目標値	実績値
ブランド価値の向上	県民のひろしまに対する愛着度・自慢度	愛着度10位以内	6位
		自慢度10位以内	12位
食の魅力向上	料理人コンクール成績優秀者	21名（延べ人数）	21名
TAUの運営	売上高（平成28年度の実績を上回る額）	9.6億円	9.7億円
	県産品等の報道件数1,000件以上	1,000件	1,816件
	販路開拓新規取引件数	100件	109件

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- ひろしまブランドの個別資産の価値向上や効果的な情報発信などを行っているが、コンセプトの浸透には時間がかかっており、県内外から「魅力ある地域として選ばれる」までに至っていない。
- 食の魅力向上の取組では、過去の料理人コンクール成績優秀者が全国規模の料理コンクールでグランプリに選出されるなど、育成支援の効果が表れ始めており、取組を継続し、魅力ある店舗の開業に結び付けていく。
- 全国へ向けて広島の魅力を発信するためには、まずは県民自ら広島の魅力を発見・共有していくことが効果的であるため、そのツールとして「日刊わしら」を開設したところである。順調にユーザー数を増やしており、ひろしまに愛着を持ち、全国に向けて影響力のある情報発信媒体に押し上げていく。
- ブランドショップT A Uでは、平成29年4月のリニューアル時に、経年劣化に伴う内外装の改修や収納性の高い什器（商品陳列棚、収納戸棚など）への入れ替えにより店舗運営が効率化されたこと、また、広島の旬の食体験の場「ひろしまC A F E」や瀬戸内の鮮魚をP Rする鮮魚売り場などを整備し、情報発信力を強化したことにより売上増となった。引き続き情報発信を強化し、ひろしまブランドの認知向上を目指す。

平成30年度の取組方向

- ひろしまブランドコンセプトに基づく統一感のある情報発信など、戦略的な情報発信を行うとともに、各コンセプトに基づく資産価値向上に取り組むことで、コンセプトの浸透につなげる。
- 愛着度・自慢度向上のため、日刊わしらを通じて機運醸成の企画などを検討する。
- 食の魅力向上については、成績優秀者育成と活用を積極的に取り組み、ひろしまの食のイメージ向上のための情報発信を実施する。
- T A Uに備える飲食や物販、情報発信機能を最大限に活用し、本物の広島魅力を、首都圏を中心とした消費者に向け発信していくための取組を展開する。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：教育費 項：社会教育費 目：文化施設費
担当課	文化財課
事業名	歴史博物館運営費（一部国庫）【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。 ② 優れた文化遺産や伝統文化に触れる機会の充実

目的

児童生徒を始めとした県民が、本県や地域の歴史・文化の理解を深めるとともに、豊かな心や教養を育むことができる環境づくりを推進する。

事業説明

対象者

県民（歴史博物館利用者）

事業内容

（単位：千円）

区分	内 容	当初予算額※	最終予算額	予算執行額
維持管理経費	○ 歴史博物館の施設の維持・管理等に要する経費	86,531	86,531	83,869
企画展等	○ 企画展・特別展の開催（2回開催）部門展の開催（2回開催）	11,433	11,433	13,902
調査・収集等	○ 資料の収集・保管, 調査研究, 学習支援	7,066	7,066	8,593
常設展示室改修費【新規】	○ 草戸千軒Ⅱ展示室を国重要文化財等の常設展示室に改修 ※財源は地方創生拠点整備交付金を活用	136,793	124,993	118,368
合 計		241,823	230,023	224,732

※ 平成29年度6月補正予算を含む

成果目標

- 平成29年度総利用者数：74,000人

平成29年度実績

平成29年度総利用者数：105,167人

指標名	基準値 (平成28年度)	目標値 (平成31年度)	実績値 (平成29年度)
入館者数	60,195人	49,000人	72,955人
利用者数	31,919人	25,000人	32,212人
総利用者数	92,114人	74,000人	105,167人

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 近年、入館者・利用者数は増加傾向にあり、引き続き、展示に対する多様なニーズの把握や改善に努め、展示・公開方法の工夫を行う必要がある。
- 資料の適切な保存や安全・快適な観覧環境の確保に向けて、施設・設備の老朽化に対する計画的な改修が必要である。
- 平成30年3月に歴史博物館常設展示室のリニューアル工事が完了したところであり、リニューアルオープンに向けて、魅力的な展示となるよう、展示内容の検討を進める必要がある。

平成30年度の取組方向

- 幅広い県民の興味関心に応える展示会と調査研究成果に基づく地域密着の展示会をバランスよく開催するとともに、他県の施設などの工夫も取り入れながら、楽しく、分かりやすい展示に取り組む。
- 引き続き、資料の適切な保存や来館者の安全・快適な観覧環境の確保などのために、施設・設備の適切な維持管理と計画的な更新に取り組む。
- 歴史博物館常設展示室のリニューアルオープンに向けて、郷土の誇る菅茶山の貴重な資料を通して、菅茶山の功績や当時の優れた文化を深く知るとともに、郷土への理解や親しみ、愛着へとつながる展示に取り組む。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：企画費 目：企画総務費
担当課	スポーツ推進課
事業名	東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致等推進事業（単県）【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	69 県内の文化・芸術・スポーツ資源や世界的知名度の活用等により、本県の魅力を創出・発信します。 ④ 東京オリンピック・パラリンピックを活用した本県の魅力向上・発信

目的

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を地域活性化につなげる観点から、意欲ある市町等と積極的に連携し、大会参加国の事前合宿の受入を実現し、スポーツ振興に留まらず、教育、文化をはじめ幅広い分野での交流を実現し、大会以降の多方面にわたる施策の推進につなげる。

事業説明

対象者

県民，市町，経済界，広島県体育協会，競技団体，国，JOC，メキシコ合衆国関係者（メキシコオリンピック委員会及び競技団体等）

事業内容

（単位：千円）

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
事前合宿の誘致	<p>【2020年東京オリンピックに向けたメキシコ選手団の県内事前合宿誘致】</p> <p>■ 基本協定の締結 全26競技の事前合宿の実施について、メキシコオリンピック委員会と基本協定を締結</p> <p>■ 個別競技視察の実施（13競技） 平成30年度から事前合宿実施予定の競技団体による関係施設等の視察を実施</p> <p>■ 全県推進会議の設立 平成30年度から実施される事前合宿の受入にあたり、全県の機運醸成や共通課題の解決に向け、県内市町、経済界、教育界等の多方面の関係者が参画し、全県推進組織を設立</p>	22,983	22,983	21,571
合計		22,983	22,983	21,571

成果目標

- 国際大会・国際大会事前合宿誘致数 のべ4件（平成29年度まで）
- 国際大会・国際大会事前合宿誘致数 のべ5件以上（平成32年度まで）

平成29年度実績

指標名	目標値 （平成29年度）	実績値 （平成29年度）
国際大会・国際大会事前合宿誘致数	のべ4件	のべ4件

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- メキシコ選手団の事前合宿の受入に当たっては、全県的な機運醸成を図るとともに、合宿受入及び合宿受入を契機とした交流を着実に実施し、2020年東京オリンピック後にも残るレガシーにつなげていくこととしているが、各受入市町など合宿受入関係者においては、これまで国際大会の合宿受入経験が乏しい。

平成30年度の実行方針

- メキシコ選手団の事前合宿受入に当たり、各受入市町における合宿及び交流の状況や取組課題を全県推進組織において共有し、合宿運営に係る共通課題を洗い出し、各構成団体による改善・強化策を講じていくなど、2020年に向け全県的な解決を図っていく。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	都市圏魅力づくり推進課
事業名	都市圏魅力創造事業（単県）【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
70	高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
①	多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

広島市を中心とする広島都市圏において、内外の多様な人材を惹きつける魅力と活力ある地域環境の創出に向け、広島市と連携した取組を推進する。

事業説明

対象者

広島市、県民等

事業内容

ひろしま都心活性化プラン（平成29年3月策定）の実現に向けて、広島市都心部（紙屋町・八丁堀地区及び広島駅周辺地区）の中核拠点性の向上を目指して、広島市と連携して取り組む。

（単位：千円）

内 容		当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
都心の活性化に向けた体制づくり（広島駅周辺地区、紙屋町・八丁堀地区）	<ul style="list-style-type: none"> 広島駅周辺地区内の事業者等によるエリアマネジメント組織の設立等の支援 紙屋町・八丁堀地区での推進体制の構築に向けた検討 	2,105	2,105	1,575
都心の地区計画の見直し（紙屋町・八丁堀地区等）【非予算】	<ul style="list-style-type: none"> 低層部へのにぎわい施設等の誘導と容積率緩和を併せて制度化するなどの都市計画制度による規制等の見直しの検討に参画 	—	—	—
合 計		2,105	2,105	1,575

成果目標

- 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
 - ・ 広島市と連携した取組件数 平成29年度：6件以上（平成27年度以降累計）

平成29年度実績

指 標 名	目標値 （平成29年度）	実績値 （平成29年度）
広島市と連携した取組件数	6件	6件

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

広島市都心部については、

- ・平和記念公園には世界中から多くの人が集まっているにも関わらず、紙屋町・八丁堀地区への人の流れや滞留時間が少ないこと、
- ・紙屋町・八丁堀地区においては、更新時期を迎える建築物が多く、その更新はあまり行われていないこと

などの課題があり、広島市を中心とする広島都市圏の中核拠点性の向上を図るため、広島市と連携して、民間開発を誘導する支援策の充実により、民間活力を活用した都心空間のリニューアルを進めるなど、魅力ある都心づくりに向けた取組を推進する必要がある。

平成30年度を取組方向

「ひろしま都心活性化プラン」で描く都心の目指す姿の実現に向け、広島市とともに、県民・市民、地元企業など様々な主体と連携し、民間の投資を呼び込むための仕組みづくりやエリアマネジメント組織の設立支援など、都心の活性化を図る取組を進めていく。

また、備後圏域の玄関口である福山駅前地区の活性化を図るため、福山市が策定する「福山駅前再生ビジョン」に基づき、新たに福山市と連携した取組を進める。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費	<table border="1"> <tr> <td>分野</td> <td>豊かな地域づくり</td> </tr> <tr> <td>領域</td> <td>魅力ある地域環境</td> </tr> <tr> <td>施策</td> <td>70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出</td> </tr> </table>	分野	豊かな地域づくり	領域	魅力ある地域環境	施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出
	分野		豊かな地域づくり					
	領域		魅力ある地域環境					
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出							
款：土木費 項：道路改良費 目：道路新設改良費								
款：土木費 項：港湾費 目：港湾建設費								
担当課	都市圏魅力づくり推進課							
事業名	広島西飛行場跡地活用推進事業(単県)【一部新規】							

目的

広島都市圏における高次都市機能集積強化により中枢拠点性の向上を図る。

事業説明

対象者

広島市，民間事業者

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
民間活力の導入に必要な事務手続き ○ 土地鑑定評価 ○ 事業予定者選定のための委員会設置費	2,305	710	710
基幹道路等の整備 (県道南観音観音線の拡幅整備及びクランクの解消，南伸道路の新設) ○ 道路詳細設計 ○ 路線測量，用地測量 ○ 物件調査 ※広島市実施 ※負担割合 県：市＝1：1	37,850	14,079	14,079
陸揚げスロープ等の整備 ○ 測量，地質調査 ○ 詳細設計 ※県実施 ※負担割合 県：市＝1：1	30,000	30,000	30,000
合 計	70,155	44,789	44,789

成果目標

- 広島西飛行場跡地の有効活用
(跡地の広島市の拠点都市としての発展に寄与し，また，その効果が広域的に波及するような利活用)

平成29年度実績

- 「広島西飛行場跡地利用計画」に基づき，跡地の事業予定者を募集し，「新たな産業（雇用）ゾーン」の事業予定者を選定した。
- 広島西飛行場跡地の円滑な交通処理の観点から，基幹道路の整備（県道南観音観音線の拡幅整備及びクランクの解消）及び南伸道路の整備（「新たな産業（にぎわい）ゾーン」へのアクセス道路の新設），陸揚げスロープ等の整備に必要な測量及び設計を行った。

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 「新たな産業（にぎわい）ゾーン」の事業予定者が決定しなかったことから、今後の対応を検討し、跡地活用を進めていく必要がある。
- 跡地活用を円滑に進めていくために、跡地の円滑な交通処理の観点から、基幹道路の整備（県道南観音観音線の拡幅整備及びクランク解消）及び南伸道路の新規整備（「新たな産業（にぎわい）」ゾーンへのアクセス道路の新設）を行う必要がある。
- また、海辺に面したウォーターフロントである地区特性を生かす観点から、マリンスポーツや観光振興の促進に資する施設の導入を図る必要がある。

平成30年度の実行方針

- 「新たな産業（雇用）ゾーン」については、事業予定者による複合産業拠点の開発に向けて土地売買契約締結等を進めるとともに、事業予定者の決定していない「新たな産業（にぎわい）ゾーン」については、「広島西飛行場跡地利用計画」に掲げる「にぎわい機能」を実現できるよう、今後の対応を検討する。
- 跡地活用に必要な交通アクセスの改善に向けた道路整備やマリンスポーツや観光振興の促進に資する陸揚げスロープの整備に取り組む。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	都市圏魅力づくり推進課
事業名	サッカースタジアム検討事業（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
	① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

サッカースタジアムについて、中央公園広場を加えた3つの候補地の比較検証を行うため、広島市と共同で、中央公園広場の実現可能性調査を実施する。

事業説明

対象者

県民

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
中央公園広場の実現可能性調査			
1 項目			
① スタジアム配置の検討など 図面等の作成、概算事業費の算出			
② スタジアム整備に伴う対応策の検討 全国類似施設での事例調査、 騒音、渋滞などへの対応策の検討	4,000	4,000	4,000
2 実施主体 広島市（負担割合 県：市＝1：1）			
合 計	4,000	4,000	4,000

成果目標

- 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

平成29年度実績

- 旧広島市民球場跡地、広島みなと公園に中央公園広場を加えた3つの候補地について比較検証を行うため、中央公園広場の実現可能性調査を実施し、既に実施済みの旧広島市民球場跡地、広島みなと公園の実現可能性調査（平成28年4月公表）の結果を併記した「サッカースタジアムに係る各建設候補地の比較」を公表した。

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 中央公園広場をサッカースタジアム建設候補地の一つに加えたことについて、広場に隣接する基町地区の住民の方々の理解を得る必要がある。
- 「サッカースタジアムに係る各建設候補地の比較」に加えて、3つの候補地についてまちづくりの観点などからの検討を行い、候補地の絞り込みを行う必要がある。

平成30年度の方針

- 中央公園広場については、隣接する基町地区の住民の方々の不安の解消に努める。
- 県、広島市、広島商工会議所の3者が、3つの候補地について、まちづくりの観点などからの検討を連携して進め、株式会社サンフレッチェ広島の意見も聞きながら、候補地の絞り込みを行う。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：都市計画費 目：都市計画総務費
担当課	営繕課
事業名	魅力ある建築物創造事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
施策	70 高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。 ① 多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

本県のブランドイメージの向上を図るため、魅力ある公共建築物の創造・発信やクリエイティブな人材の育成などを積極的に推進する。

事業説明

対象者

建築関係者（建築家，学生等），県民

事業内容

（単位：千円）

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
魅力ある公共 建築物の創 造・発信	① 広島型建築プロポーザル方式の実施 ② 広島型建築プロポーザル方式の市町への積極的な普及及び技術支援 ③ 事業成果の情報発信 （トークイベント，パネル展示，完成見学会）	3,932	3,598	3,076
民間建築物へ の波及	① 県内の魅力ある建築物の発信イベント「ひろしまたてものがたり」の展開 たてものがたりフェスタの実施 ② クリエイティブな人材育成 建築学生チャレンジコンペの実施	2,702	2,586	2,156
合 計		6,634	6,184	5,232

※ 広島型建築プロポーザル方式では、最も適した設計者を選定するため、次の4つの特色を盛り込んでいる。

- 1 参加資格のオープン化
- 2 建築関係団体との協定に基づく審査員選定
- 3 技術提案を重視した審査
- 4 公開ヒアリングなど審査過程の透明化

成果目標

- 広島型建築プロポーザル方式による発注件数
 - ・ 県 100%， 市町 4 件以上（平成 29 年度）
- 県内の建築物が有名建築雑誌（※ 1）に掲載される件数
 - ・ 5 件/年間（平成 29 年度）
- 県内の公共建築物の公共建築賞（※ 2）受賞件数
 - ・ 平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 年間で 8 件以上

※ 1 新建築，日経アーキテクチュア

※ 2 地域への貢献が著しく，文化性が高いなどの優れた公共建築を表彰する。

平成 29 年度実績

指 標 名	目標値 (平成 29 年度)	実績値 (平成 29 年度)
広島型建築プロポーザル方式による発注件数	① 県 100% ② 市町 4 件以上	① 該当なし ② 市町 9 件
県内の建築物が有名建築雑誌に掲載される件数	年間 5 件以上	年間 11 件
県内の公共建築物の公共建築賞受賞件数	8 件以上 (平成 26～35 年度累計)	4 件 (平成 26～29 年度累計)

平成 29 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 広島型建築プロポーザル方式について、県発注案件は、対象となる物件が無い状況であったため、要件を弾力的に運用するなど、県発注案件の創出に向けた対応が必要である。
一方で、建築技術者がいない市町等へのプロポーザル実施に向けたプロセスからの技術支援や完成見学会を通じた魅力ある建築物の情報発信など市町と連携して実施している。
- 優れた設計者に設計を依頼し、魅力ある建築物を創造していくという意識を公共建築だけではなく、民間へも波及させる必要がある。
- 「県内の魅力ある建築物の発掘・発信」を民間の自主的な取組に移行させ、継続して自立的に実施できる体制を整えていく必要がある。

平成 30 年度を取組方向

- 広島型建築プロポーザル、建築学生チャレンジコンペについては、県内へ人を呼び込むため、審査委員に著名な建築家を起用することや全国の建築学生を対象とすることなどによって、多くの建築関係者の関心を惹きつけることができおり、今後も継続して取り組んでいく。
特に、建築学生チャレンジコンペについては、2018 年日本建築学会教育賞の受賞を契機に、更に、本県のブランドイメージと知名度の向上を目指し、関連イベントを実施するなど、周知活動に取り組んでいく。
- 「魅力ある建築物を創造する」という意識を民間へも広めていくため、著名な建築家が携わった事例を重点的に情報発信していく。
- 「県内の魅力ある建築物の発掘・発信」を民間の自主的な取組にしていくため、民間主体の実行委員会方式による「ひろしまたてものがたりフェスタ」の開催に取り組んでいく。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：土木費 項：都市計画費 目：都市計画総務費
担当課	都市計画課
事業名	魅力ある「まちなみづくり」支援事業（単県）

分野	豊かな地域づくり
領域	魅力ある地域環境
70	高い質感を持つ街並みや都心のにぎわいなど、多様な人材をひきつける魅力的な環境の整備、創出に取り組みます。
①	多様な人材を惹きつける魅力的な地域環境の創出

目的

本県における集客・交流の促進など地域の賑わい創出に向けて、魅力ある景観等、デザイン性のある都市空間の形成を図るため、市町が行う魅力あるまちなみづくりを支援する。

事業説明

対象者

魅力あるまちなみづくりに取り組む市町

事業内容

モデル地区に選定し、市町が行う魅力あるまちなみづくりを、重点的に支援することにより、早期に魅力あるまちづくりを進めるとともに、モデル地区以外の地域への普及を促進する。

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
モデル地区の支援	モデル地区を選定し、市町単独では実施が困難なまちづくりの指針となるデザインコンセプトの策定などについて重点支援することで、市町による魅力あるまちなみづくりを促進する。(平成26年度選定の宮島口地区(廿日市市)・街道東城路周辺地区(庄原市)及び平成27年度選定の忠海地区(竹原市)の他、平成29年度は1市町を公募により選定) ① ワークショップの運営支援、アドバイザー派遣 ② デザインコンペ等におけるデザイン審査会の設立・運営	10,233	5,715	5,456
他地域への普及促進	モデル地区の取組状況などを、県内の市町と共有することにより、モデル地区以外への普及を促進する。 ① 県市町勉強会を通じた情報提供【非予算】 ② 県HPによる情報発信【非予算】	—	—	—
合計		10,233	5,715	5,456

成果目標

○ デザインコンセプト策定地区数

0地区(平成25年度) → 4地区(平成30年度)

平成29年度実績

指標名	基準値 (平成25年度)	目標値 (平成30年度)	実績値 (平成29年度)
デザインコンセプトの 策定地区数	0地区	4地区 (平成25～30年度累計)	3地区 (平成25～29年度累計)

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 宮島口地区（廿日市市）と街道東城路周辺地区（庄原市）では、策定したデザインコンセプトの実現に向けた取組に対して支援を行うとともに、忠海地区（竹原市）では、平成28年度から進めてきたワークショップを終え、平成30年3月にデザインコンセプトを策定した。
- 本町西国街道地区（三原市）を新たにモデル地区として選定し、デザインコンセプト策定のためのワークショップ開催に向けて準備を進めた。

平成30年度取組方向

- 平成29年度に選定した本町西国街道地区（三原市）については、デザインコンセプト策定に向けてワークショップ開催等に取り組む。
- 先行する3地区については、策定したデザインコンセプトの実現に向けて引き続き、支援していくとともに、その他の地域については、モデル地区におけるワークショップ等の取組や、他県も含む先進事例について広く情報提供し、普及促進に向けて取り組むことで機運の醸成を図っていく。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：観光費 目：観光費
担当課	観光課
事業名	海の道プロジェクト推進事業(単県)【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	瀬戸内
施策	73 一般社団法人せとうち観光推進機構において、国内外へのプロモーションや瀬戸内の魅力を体感する環境整備、観光関連サービス、地域産品などのプロダクトの開発誘導の充実に取り組みます。
	① 観光ブランド「瀬戸内」の実現

目的

瀬戸内エリアが一体となって「瀬戸内ブランド」を確立することで、観光関連産業の育成や地域再生のイノベーションを起こすと同時に、国内外から人々を呼び込み、「瀬戸内 海の道構想」の実現を図る。

事業説明

対象者

瀬戸内地域の住民及び国内外の人々

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
瀬戸内ブランドの形成	○ (一社)せとうち観光推進機構(せとうちDMO)の円滑な運営	41,200	41,500	41,500
	○ 広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」の形成促進 ・戦略的なプロモーション ・観光プロダクトの開発・販売促進 ・外国人観光客の受入環境の整備等			
観光資源の魅力づくり	○ 国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」の次回開催に向けた準備経費	9,508	9,508	9,110
	○ 民間事業者と連携したしまなみ海道等海外プロモーション【新規】	9,000	9,000	8,230
合計		59,708	60,008	58,840

(注)「瀬戸内ブランドの形成」には、まち・ひと・しごと創生寄附活用事業(企業版ふるさと納税)を含む。

成果目標

- 中長期の目標：首都圏等からの瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合(DMO調査)

平成32年：50%

瀬戸内7県の外国人延宿泊者数 平成32年：600万人泊

- 平成29年の目標：首都圏等からの瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合(DMO調査)：32%

瀬戸内7県の外国人延宿泊者数：364万人泊

平成29年度実績

指標名	目標値 (平成29年)	実績値 (平成29年)
首都圏等から瀬戸内への来訪意向を持つ人の割合	32%	25.7%
瀬戸内7県の外国人延泊者数	364万人泊	350万人泊

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- プロモーションについては、市場・ターゲット別のマーケティング手法を確立し、現地エージェンシーの配置や予約機能を持ったWEBサイトを活用しながら行ってきたが、プロダクト開発については、有力コンテンツの収集・磨き上げ・プロダクト化のノウハウの蓄積をすることができたものの、開発の仕組化までには至らず、クルーズや瀬戸内しまなみ海道でのサイクリング等はあるものの、エリア全体でのプロダクトが不足していることが課題の一つとして考えられる。

平成30年度の取組方向

- せとうちDMO、関係自治体及び観光関連事業者等と連携し、引き続き、各国の現地エージェンシーとの連携を強化する。また、WEBサイトを活用したデジタルマーケティングの実践による更なる露出拡大や集客の増加につなげるとともに、マーケティングに基づいてプロダクト開発からプロモーションまでを一体的に行う仕組みを構築することで、相乗効果を図る。
- 瀬戸内しまなみ海道において、広島県側スタートを設定した国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2018」を多くの外国人参加者を迎えて愛媛県と開催するとともに、関係機関と連携した広域のサイクリングコースの受入環境整備やプロモーション等に取り組む。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	中山間地域振興課
事業名	「ひろしま さとやま未来博2017」開催事業 (単県)

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
76	自主的・主体的な地域づくりを支える多様な人材の育成・ネットワークづくりに取り組みます。
①	地域における「つながり力」の強化と活躍人材の育成・ネットワークづくり

目的

中山間地域の活性化に向けて、これまでの取組により蓄積された多様な人材の交流とネットワークづくりを加速するための起爆剤となる県民参加型プロジェクトを展開し、実践活動の更なる活発化を図る。

事業説明

対象者

県民，企業，各種団体等

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
「ひろしま さとやま未 来博201 7」の実施 (実施期 間：平成29 年3月～11 月)	①ココロザシ応援プロジェクト 地域づくりに向けた自主的・主体的な取組を、実践的な活動につなげていくための応援プロジェクト ◆支援内容 ・財政支援 1/2補助，上限500千円 ・人的支援 アドバイザー派遣	171,600	210,005	210,005
	②シンボルプロジェクト 実行委員会が主催する中山間地域への共感と誘客促進を図るためのプロジェクト ◆内容 ・廃校リノベーション ・さとやまソーシャルライド ・さとやまスマイルラン ・オープニングフェスタ ・クロージングイベント			
	③プロモーション さとやま未来博の認知度・関心度を高め、幅広い参画を得るためのプロモーション活動 ◆主な内容 ・メディア・Web等による情報発信，ガイドブック作成など			
合 計		171,600	210,005	210,005

成果目標

- プロジェクト参画者数 6,000 人
- プロジェクト来場者数 60 万人増加

平成 29 年度実績

指 標 名	目標値 (平成 29 年度)	実績値 (平成 29 年度)
プロジェクト参画者数	6,000 人	13,576 人
プロジェクト来場者数	60 万人増加	731,614 人増加

平成 29 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 「ひろしま さとやま未来博 2017」を契機とした取組を一過性に終わらせず，終了後も，参画者が意欲を持って，自主的・主体的に活動を継続することが重要である。

平成 30 年度の実行方向

- 「ひろしま さとやま未来博 2017」を通じて広がりを見せている地域づくり活動を継続・発展させるため，人材のプラットフォームとして立ち上げた「ひろしま里山・チーム 500」を基盤としつつ，関係機関との連携によるサポート体制の構築やチャレンジ機会の創出など，地域づくり活動を側面的に支援する。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：地域振興推進費
担当課	中山間地域振興課
事業名	中山間地域元気づくり推進事業(単県)【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	76 自主的・主体的な地域づくりを支える多様な人材の育成・ネットワークづくりに取り組みます。
	① 地域における「つながり力」の強化と活躍人材の育成・ネットワークづくり

目的

持続可能な地域づくり活動のベースとなる人材育成の取組を加速させつつ、多様な主体の交流と協働により、県民の自主的かつ自立的な地域づくり活動の活発化を図る。

事業説明

対象者

県民（中山間地域の地域づくりに関心のある方）等

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
「ひろしま『ひと・夢』未来塾」の運営	<p>◆内容 地域づくりの担い手の確保やスキルアップのため、中山間地域内外の受講生を対象に合宿形式の研修を実施し、担い手育成とネットワークづくりを図る。</p> <p>◆対象者 地域づくりに関心のある20代～40代の若者層</p> <p>◆参加人数 40人</p>	8,700	8,700	8,196
「ひろしま里山・チーム500」の運営【一部新規】	<p>◆内容 地域づくり実践者の活動継続等を図るためのポータルサイトの運営、セミナーの開催等</p>	9,800	9,800	9,667
中国地方知事会共同事業の実施【新規】	<p>◆内容 地域づくり実践者の県域を越えたネットワークを構築し、モデル事例の相互波及を図るため、5県が共同して活動発表会を開催</p>	1,500	1,500	1,500
合計		20,000	20,000	19,363

成果目標

- 地域づくり活動をリードする人材の育成 平成29年度目標：255人（累計）
平成36年度目標：500人（累計）

平成29年度実績

指標名	基準値 (平成28年度)	目標値 (平成29年度)	実績値 (平成29年度)
地域づくり活動を リードする人材の育成	70人	255人	260人

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 研修等により養成した地域の担い手となる人材の地域づくり活動を継続・発展させるとともに、地域づくり活動をリードする人材の更なる拡大と交流を図る必要がある。

平成30年度の実行方向

- 中山間地域で地域づくりに取り組む人や活動をつなぐプラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」を基盤としつつ、活動を継続・発展させるため、関係機関との連携によるサポート体制の構築や、新たなチャレンジ機会の創出など、地域づくり活動を側面的に支援する。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：農林水産業費 項：農地費 目：農地総務費
担当課	農業基盤課
事業名	農業・農村多面的機能支払事業（一部国庫）

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	77 多様な人たちが、地域の資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジできる環境整備に取り組みます。 ① 持続的な農業生産活動の実現

目的

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための地域活動や、道水路や農村環境の適切な保全活動を支援することにより、持続的な農業生産活動を通じた農地の公益的機能の維持・発揮を図る。

事業説明

対象者

広島県農地・水・農村環境保全協議会，市町，県

事業内容

(単位：千円)

区分	内容	補助率	実施主体	当初予算額	最終予算額	予算執行額
農地維持支払	○ 多面的機能を支える共同活動を行う集落等に支援 ※農地法面の草刈，水路の泥上げ，体制の拡充・強化等に要する経費 【交付単価】 田：3,000円/10a 畑：2,000円/10a 草地：250円/10a	国 1/2 県 1/4 市町 1/4	市町	457,247	438,755	438,037
資源向上支払 共同活動	○ 地域資源の質的向上を図る共同活動に支援 ※水路，農道，ため池の軽微な補修，植栽による景観形成等 【交付単価】 田：2,400円/10a 畑：1,440円/10a 草地：240円/10a 協定期間5年間経過後は，75%単価			279,305	220,134	219,798
長寿命化	○ 農業用施設の長寿命化を図るための活動に支援 ※老朽化部分の補修や機能維持のための更新等 【交付単価】 田：4,400円/10a 畑：2,000円/10a 草地：400円/10a			204,888	188,385	187,666
合 計				941,440	847,274	845,501

成果目標

公益的機能が維持される面積：43,600ha（～平成32年度）

平成29年度取組面積：19,602ha

平成 29 年度実績

指 標 名	基準値 (平成 25 年度)	目標値 (平成 32 年度)	実績値 (平成 29 年度)
多面的機能支払制度 の取組面積	9,104ha	43,600ha	18,454ha

平成 29 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 取組面積の拡大に向け、市町と連携しながら地域に対して制度活用に向けた働きかけを行ったが、高齢化に伴い、地域をまとめるリーダーが不足しており、取組面積は目標を下回った。
- 既存の活動組織においても、制度活用に伴う事務作業を担う人材不足を理由に、将来的には取組を継続することが困難、もしくは規模を縮小せざるを得ないと考えている組織が存在する。

平成 30 年度の取組方向

- 取組面積の拡大に向け、地域外の担い手と連携し、持続的な農業経営と一体的に農地を維持・保全管理する体制づくりを推進する。
- 制度活用における事務作業の負担を軽減するため、研修会の場を通じて、活動組織の広域化の取組を紹介するなど、近隣地域との広域活動組織の設立を推進する。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：農林水産業費 項：農業費 目：中山間地域対策費
担当課	農業基盤課
事業名	中山間地域等直接支払事業（一部国庫）

分野	豊かな地域づくり
領域	中山間地域
施策	77 多様な人たちが、地域の資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジできる環境整備に取り組みます。 ① 持続的な農業生産活動の実現

目的

中山間地域における適正な農業生産活動の維持を通じ、農地の公益的機能の維持発揮を図るため、中山間地域の持つ農業生産条件の不利性を直接補正する。

事業説明

対象者

市町

事業内容

(単位：千円)

区分	内 容	補助率	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額
交付金事業	<p>○ 農業の生産条件に関する不利性を直接補正するための支援</p> <p>※対象農用地に係る交付金を集落代表者等に交付するために市町が要する経費を補助</p> <p>【対象となる地域】 地域振興5法の指定地域及び県が指定する地域</p> <p>【対象となる農用地】 傾斜等一定の基準を満たす農振農用地区域内の一団の農用地</p> <p>【交付単価】 (10a 当たり)</p> <p>[田] 急傾斜 1/20 以上 : 21,000 円 緩傾斜 1/100 以上 : 8,000 円</p> <p>[畑] 急傾斜 15 度以上 : 11,500 円 緩傾斜 8 度以上 : 3,500 円</p> <p>[草地] 急傾斜 15 度以上 : 10,500 円 緩傾斜 8 度以上 : 3,000 円</p> <p>[採草放牧地]</p> <p>急傾斜 15 度以上 : 1,000 円 緩傾斜 8 度以上 : 300 円</p> <p>【加算措置】 (10 a 当たり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落連携・機能維持加算 [集落協定の広域化支援] 地目にかかわらず : 3,000 円 [小規模・高齢化集落支援] 田 : 4,500 円, 畑 : 1,800 円 ・超急傾斜農地保全管理加算 [田・畑] 6,000 円 	<p>国 1/2 県 1/4 市町 1/4</p> <p>(特認) 国 1/3 県 1/3 市町 1/3</p>	2,122,363	2,061,310	2,061,252

成果目標

公益的機能が維持される面積 : 24,000ha (～平成 32 年度)
平成 29 年度取組面積 : 21,316ha

平成 29 年度実績

指 標 名	基準値 (平成 22 年度)	目標値 (平成 32 年度)	実績値 (平成 29 年度)
中山間地域等直接支払 制度の取組面積	20,367ha	24,000ha	21,076ha

平成 29 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 取組面積の拡大に向け、市町と連携しながら地域に対して制度活用に向けた働きかけを行ったが、高齢化に伴い、地域をまとめるリーダーが不足しており、取組面積は目標を下回った。
- 既存の活動組織においても、制度活用に伴う事務作業を担う人材不足を理由に、将来的には取組を継続することが困難、もしくは規模を縮小せざるを得ないと考えている組織が存在する。

平成 30 年度 of 取組方向

- 取組面積の拡大に向け、地域外の担い手と連携し、持続的な農業経営と一体的に農地を維持・保全管理する体制づくりを推進する。
- 制度活用における事務作業の負担を軽減するため、研修会 の場を通じて、活動組織の広域化の取組を紹介するなど、近隣地域との広域活動組織の設立を推進する。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	平和推進プロジェクト・チーム
事業名	国際平和拠点ひろしま構想推進事業（単県） 【一部新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	平和貢献
79	核兵器廃絶のメッセージを継続的に発信するとともに、核軍縮・不拡散プロセスの進展への取組を促進します。
①	核兵器廃絶に向けたプロセスの進展
80	復興・平和構築のための人材育成と研究集積を促進します。
①	平和構築のための人材育成と研究集積
81	持続可能な平和支援メカニズムを整備します。
①	持続可能な平和支援メカニズムの構築

目的

世界中のリーダーや研究者、NGOなど、幅広い人材や情報・知識、資金などの資源を広島に集め、結びつけ、つなぐことにより、核兵器廃絶や復興・平和構築などの分野の研究や活動が活発に展開される「国際平和拠点ひろしま」を実現することを通じて、平和で安定した国際社会の実現に貢献する。

事業説明

対象者

各国政府、県民、大学、NGO、財団、国連等の国際機関等

事業内容

(単位：千円)

区 分	内 容	当 初 予算額	最 終 予算額	予 算 執行額
核兵器廃絶	ひろしまラウンドテーブル開催事業	22,756	20,756	18,969
	ひろしまレポート作成事業			
復興・平和構築	平和構築人材育成強化事業	7,873	9,131	9,117
	ひろしま復興・平和構築研究事業			
	ひろしま研究・教育機関連携強化事業			
持続可能な平和支援メカニズム構築	国際平和拠点構想推進委員会の開催等	29,149	34,698	31,909
	NPT運用検討会議準備委員会への参加等【新規】			
	国際会議開催・誘致事業			
合 計		59,778	64,585	59,995

成果目標

- NPT運用検討会議（2020（平成 32）年開催）の最終文書への「ひろしまラウンドテーブル」提言内容の働き掛け
- 県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数 平成 29 年度目標：1,800 人
- 平和に関する人材，知識・情報，資金などを集積して，継続的な平和活動を可能とする仕組みの事業推進主体としてのセンター機能の方向性の具体化

平成 29 年度実績

- 「ひろしまラウンドテーブル」で取りまとめた「議長声明」を外務省に提案し，政府主催の「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」の場において政府が各委員に配布するなど，政府が目指す NPT 運用検討会議準備委員会への提案づくりに一定の貢献をした。
- 県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数

指標名	基準値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	実績値 (平成 29 年度)
県及び県の関係機関で平和を学ぶ人数	2,493 人	1,800 人	4,864 人

- 国連軍縮研究所等の平和に関する世界的研究機関との連携協定の締結や「国際平和のための世界経済人会議ミニ・フォーラム」開催による経済界，国際機関等との連携などを進めて，継続的な平和活動を可能とする仕組みづくりのためのセンター機能の方向性の具体化のための手法を整理。

平成 29 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 核兵器廃絶に向けたアプローチを巡る核兵器国と非核兵器国との溝を埋め，核軍縮を実質的に進めるための方策づくりの強化が必要である。
- 海外から来広する研修生や県内大学生・高校生などが平和を学ぶ人数は目標を上回った。今後は，県外や海外を対象としたプログラムの充実を図る必要がある。
- センター機能の方向性の具体化を図ることにより，平和に関する人材，知識・情報，資金などの集積につなげていく必要がある。

平成 30 年度の取組方向

- 平和に関する世界的な研究機関と核軍縮を実質的に進めるための共同研究を行い，ひろしまラウンドテーブルの提言に反映させることなどにより，NPT 運用検討会議準備委員会などで効果的な働きかけを行い，核軍縮に具体的に貢献していく。
- 平和に関する世界的な研究機関と核軍縮を実質的に進めるための共同研究を行い，ひろしまラウンドテーブルの提言に反映させることなどにより，NPT 運用検討会議準備委員会などで効果的な働きかけを行い，核軍縮に具体的に貢献していく。
- 平和に関する世界的な研究機関との連携強化やビジネスと平和構築の在り方の関係を多面的に議論する「国際平和のための世界経済人会議」の開催などを通じ，国際機関，研究機関，経済界，NGO 等，様々な機関とのネットワークを具体的な取組へと充実させることにより，平和に関する人材，知識・情報，資金などの集積につなげ，平和に関する拠点性の向上を図る。

平成29年度主要事業の成果

分野	豊かな地域づくり
領域	平和貢献
施策	81 持続可能な平和支援メカニズムを整備します。
	① 持続可能な平和支援メカニズムの構築

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	国際課
事業名	ひろしまジュニア国際フォーラム開催事業（単県）

目的

海外から高校生を招聘して、県内の高校生と国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界に発信するとともに、国際的な相互理解を深め、次代の人材育成と国際平和拠点性向上に資する。

事業説明

対象者

県内高校生、留学生及び一般県民、海外高校生等

事業内容

(単位：千円)

内 容	当 初 予算額	最 終 予算額	予 算 執行額
○ ひろしまジュニア国際フォーラムの開催			
1 開催時期 平成29年8月17日（木）～20日（日）			
2 実施場所 広島国際会議場ほか			
3 テーマ 平和な世界の実現に向け私たちができること (核兵器廃絶と復興・平和構築に向けた取組)			
4 プログラム			
8月17日 オリエンテーション, 平和記念資料館見学, 慰霊碑参拝, 被爆証言聴講, 開会式・基調講演〔一般公開〕, チームビルディング	19,000	19,000	17,802
8月18日 グループディスカッション			
8月19日 グループディスカッション 報告会・広島宣言発表〔一般公開〕			
8月20日 地域交流事業 宮島体験プログラム			
合 計	19,000	19,000	17,802

成果目標

- 広島の国際平和拠点性の向上

平成29年度実績

- 参加者 高校生・留学生 計83名

・外国人高校生	29名
・県内高校生	40名
・県内留学生	14名

(海外高校生の招へい国・地域)

友好提携先からの招へい	中国・四川省, アメリカ・ハワイ州, メキシコ・グアナフアト州	
海外県人会からの招へい	アルゼンチン	
広島県内に留学生が多い国(地域)からの招へい	海外から	ベトナム, 韓国, インドネシア, バングラデシュ, マレーシア, ネパール, 台湾, カンボジア, ミャンマー, モンゴル, アフガニスタン, インド, ラオス
	国内から	フランス, ドイツ, イラン, ブラジル, ニュージーランド, カナダ, コロンビア, ペルー, ガーナ, オーストラリア, スペイン, イギリス

- 基調講演等来場者 約 500 名

平成 29 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 平和のメッセージの発信力の強化と参加者の国際的な相互理解の促進に向け、外国人高校生の参加国・地域数の増加などに取り組む必要がある。

平成 30 年度の実行方向

- 外国人高校生の参加国・地域数の増加を図り、平和のメッセージの発信力を高める。
- インターネットなどを通じた情報発信を強化する。

平成29年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	平和推進プロジェクト・チーム
事業名	国連軍縮会議開催支援事業（単県）【新規】

分野	豊かな地域づくり
領域	平和貢献
施策	81 持続可能な平和支援メカニズムを整備します。
	① 持続可能な平和支援メカニズムの構築

目的

軍縮・安全保障を幅広く議論する国連軍縮会議を広島で開催し、参加者の原爆死没者慰霊碑の参拝・献花や平和祈念資料館の見学等を通じて、被爆の実相に触れ、核兵器廃絶に向けて取り組む決意を新たにさせていただくとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う広島の思いを発信する。

事業説明

対象者

国内外の政府高官，研究者等（広島市，外務省）

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額
広島市と連携し，第27回国連軍縮会議の開催への支援を行う。 【時期】平成29年11月29日（水），30日（木） 【場所】広島市内 【主催】国連アジア太平洋平和軍縮センター	—	10,392	7,448
合 計	—	10,392	7,448

成果目標

- 国内外の政府高官等の広島訪問を通じた，核兵器のない平和で安定した国際社会への貢献

平成29年度実績

- 「ひろしまラウンドテーブル」で取りまとめた「議長声明」を外務省に提案し，政府主催の「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」の場において各委員に配布いただき，政府が目指すNPT運用検討会議準備委員会への提案づくりに一定の貢献をした。
- その後開催された「国連軍縮会議」では，「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」への出席者を含む世界各国の政府高官，軍縮問題の専門家等50名程度の出席を得て，核兵器禁止条約や非核兵器地帯の実現をテーマに議論され，NPT運用検討会議準備委員会に向けて核軍縮のための具体的な知恵やアイデアが議論された。

平成29年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 核兵器廃絶に向けたアプローチを巡る核兵器国と非核兵器国との溝を埋め，核軍縮を実質的に進めるための方策づくりの強化が必要である。

平成30年度の方針

- 平和に関する世界的な研究機関と核軍縮を実質的に進めるための共同研究を行い，ひろしまラウンドテーブルの提言に反映させることなどにより，NPT運用検討会議準備委員会などで効果的な働きかけを行い，核軍縮に具体的に貢献していく。